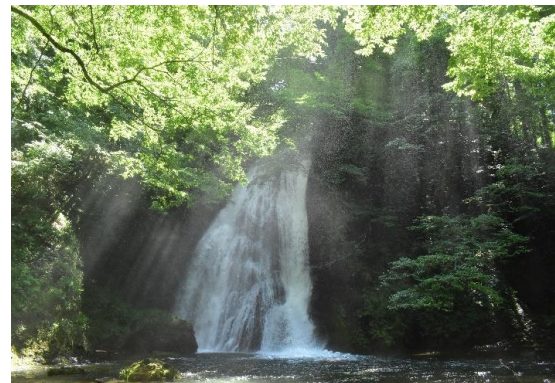
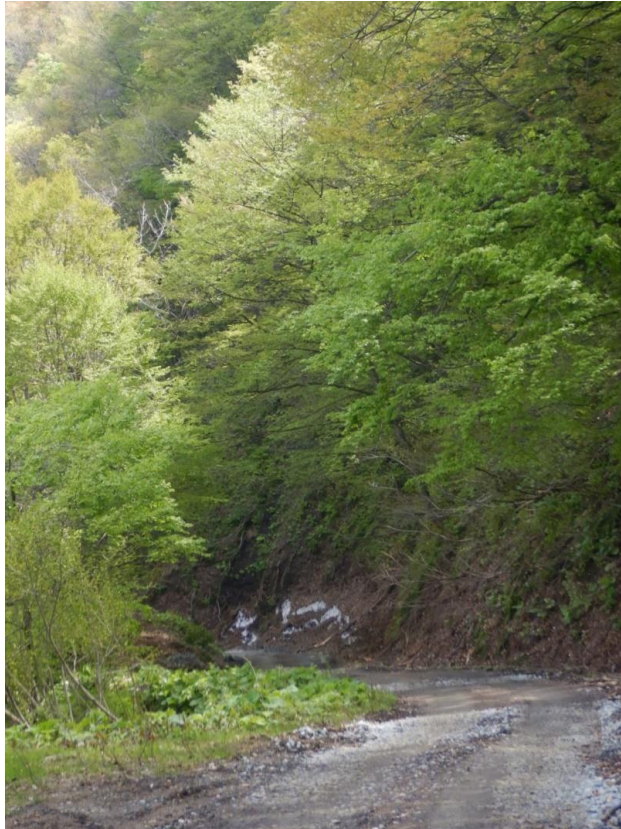


白 神 通 信



藤里点描

[contents]

- ◆中・大型哺乳類調査（センサーカメラ設置）・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
- ◆ニホンジカ痕跡調査の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
- ◆令和7年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議（秋田県側）・・・・・・P4
- ◆藤里学園7年生 地域を学ぶ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
- ◆能代高校二ツ井キャンパス校 招へい講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
- ◆能代高校二ツ井キャンパス校生への植樹指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・P7
- ◆能代高校2年生インターンシップ受入・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8

中・大型哺乳類調査(センサーカメラ設置)

令和7年度の「中・大型哺乳類調査」が始まりました。

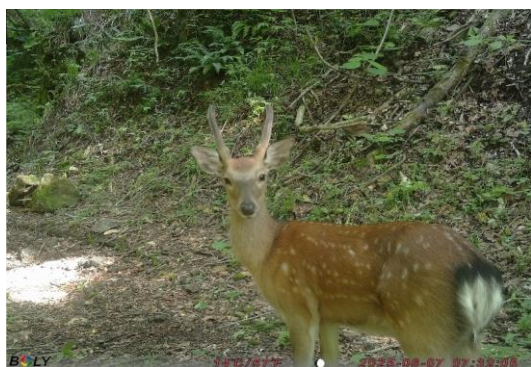
この調査は、白神山地周辺地域の藤里町と八峰町にセンサーカメラを設置し、そこに生息する哺乳類を把握するもので、特に最近生息範囲を広げていて白神山地の生態系に影響を与える恐れのあるニホンジカや外来種であるアライグマなどの生態を注意深く観察するものです。

センサーカメラの設置は、林道の消雪状況を確認しながら実施することにしており、例年雪消えの早い八峰町からカメラを設置していますが、今年は大雪の影響で、設置開始が遅れることが心配されました。

八峰町の設置開始は、4月17日と昨年より1日早くなりましたが、雪消えの遅かった藤里町の小岳林道では、最終の設置が6月9日と昨年より1か月ほど遅くなりました。



センサーカメラ設置の様子（八峰町）



撮影されたニホンジカ



撮影されたツキノワグマ

今後も1か月に一回を目安にデータを回収し、どの場所でどの動物がどのくらいの頻度で撮影されたかを注意深く観察していきます。

なお、8月末時点で確認された動物は、ニホンジカ、イノシシ、ハクビシンなど24種となっています。

ニホンジカ痕跡調査の実施

令和7年5月13日（火）、藤里町において、ニホンジカ痕跡調査を行いました。

この調査は、ニホンジカの越冬地を探すもので、越冬地の条件として、斜面が南から南東を向いている、斜面の傾斜が緩やか、ニホンジカが隠れることのできるスギ林が存在する、などがあげられます。

これらの条件を満たしている箇所を、森林総合研究所東北支所（以下「森林総研」という。）の研究員の方が、地形図やグーグルマップを元に絞り込み、民有地が含まれている場合には、地元の藤里町から協力を得て調査箇所を決定しました。

調査は、森林総研の研究員の方、環境省、東北森林管理局、米代西部森林管理署、当センターの総勢9人で実施しました。

調査開始前に打合せを行い、3班に分かれて、植物が食べられた跡や糞など、ニホンジカと思われる痕跡がないか、調査対象地の林内を隈なく探し、4箇所で食痕や糞など7つの痕跡を採取しました。

これらの痕跡を森林総研が持ち帰りDNAを分析したところ、ニホンジカの陽性反応は出なかったことから、藤里町ではニホンジカを目撃情報はあるものの、今回の調査で越冬地を絞り込むまでには至りませんでした。

今後も、センサーカメラでの撮影結果と併せ、食痕や糞などのフィールドサインにも注目しながら巡視活動を実施していきます。



参加者での打合せ



痕跡の採取

令和7年度 第1回 白神山地世界遺産地域 巡視員会議の開催(秋田県側)

6月4日(水)、白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)が、藤里町総合開発センターで開催されました。

この会議は、白神山地世界遺産地域連絡会議が主催するもので、6月と12月の年2回開催され、6月は、連絡会議を構成する関係機関から今年1年の事業計画の説明や事務局である東北森林管理局から巡視にあたっての注意事項などを説明する巡視員との情報共有の場となっています。

連絡会議の主催者を代表して、東北森林管理局計画保全部長から、「今年2月に発生した大船渡市での大規模林野火災に関連し、白神山地内での焚火は減少傾向にあるものの、悪い条件が重なると豊かな森林が一気に破壊されるという大きなリスクがあることから、ルール違反やマナー違反への注意喚起をお願いしたい。また、森林病虫獣害についての目撃情報の報告をお願いしたい。」との挨拶がありました。



主催者のあいさつ



新たな巡視員へ委嘱状交付



会議の様子



関係機関による説明

令和7年度は巡視員1人の交代があり、新たな巡視員となった斉藤誠悦さんに、計画保全部長から委嘱状が交付され、斉藤さんからは、「今後の巡視活動に対し、白神山

地の保全にお役に立てるように努力してまいりたい」との言葉を頂きました。

議事のその他安全対策では、事務局から、春先からクマの目撃情報や人的被害が多発傾向にあることから、クマの被害防止対策について特に注意喚起を行いました。

巡視員の皆さんには、天候や体調に十分注意されまして、安全第一で巡視活動をお願いいたします。

また、世界遺産白神山地や、その周辺地域にお越しの方は、入山に際してマナーの遵守をお願いいたします。

藤里学園7年生 地域を学ぶ

5月8日(水)、藤里町立義務教育学校藤里学園の7年生14人が、当センターを訪問し、白神山地の保全管理や林業について職員から説明を受け、自分たちの身近にある森林とその周辺地域の自然について理解を深めました。

生徒たちは午前中、町の施設でキノコの植菌体験や炭焼きの窯出作業を見学し、午後から当センターを訪問しました。

当センターには、学校のカリキュラムで毎年訪問しており、昨年は白神山地の保全について説明したあと、小木工品のネームプレートを作成しました。

今年は少し内容を変更し、白神山地の保全管理について、林業とSDGsについて講義を行った後、生徒参加型の時間を設けました。

生徒参加型の時間は、若手職員が作成した「〇〇って何？」という10の問題について、生徒たちがセンターの展示物を参考に答えを見つけ出すというものです。

生徒たちは班ごとに分かれ回答用紙に記入、その後、若手職員が問題ごとに、展示物の写真をスクリーンに写しながら答えの解説を行うと、生徒から「よっしゃ」などの歓声があがり、とても盛り上がりました。



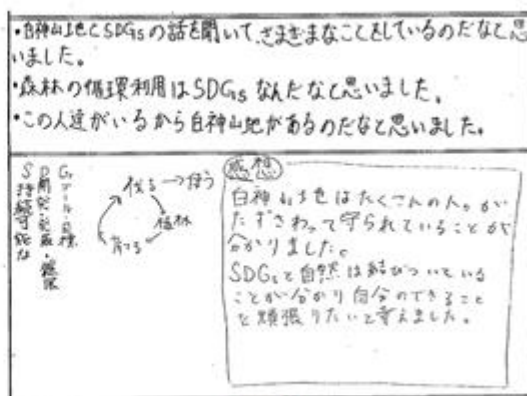
白神山地の保全管理について説明



展示物から答えを探す生徒



問題の答えを画像で解説



生徒の感想

クイズ形式は、若手職員が話を聞くだけの一方通行な時間よりも、生徒たちに考えさせる時間を設け、その後答え合わせをする相互通行の方が身につくのでは？という自身の経験からでした。

引率の先生からは、午前中の体験や見学について、「より理解が深まる内容だった」との感想を頂きました。

その日の夕方には、生徒からの感想も届き、こちらで説明したことをしっかり理解している様子が伺えました。

能代高校ニツ井キャンパス招へい講座

能代高校定時制課程ニツ井キャンパスから、「白神山地」に関する講義の依頼が当センターにあり、令和7年5月30日（金）、所長が講師として学校に出向き講義を行いました。

ニツ井キャンパスは、秋田県側では世界遺産「白神山地」に最も近い高校であるということから、特色ある学校づくりとして「白神プロジェクト」という取り組みを行っています。

その取り組みの一つに「招へい講座」があり、白神山地に関わりのある人から講義を受けるというもので、今年度は、当センターに講義の依頼があったものです。

全校生徒72人と教職員約10人を前に、所長から「当センターの概要」「白神山地世界遺産地域の概要」「白神山地における保全管理の取組」について講義を行いました。

生徒は、「印象に残ったこと」「白神山地についてわかったこと」「感想」と書かれたシートにメモをしながら熱心に講義を聞いていました。

担当の先生からは、ニホンジカの話は興味深かったとの感想を頂きました。また、生徒の感想は後日学校から届けられ、その一部を抜粋して紹介します。

「白神山地はたくさんの自然や動物に恵まれていると思った。これからの活動で魅力をもっと知りたい。」「たくさんの人が自然を大切にしてきたように、秋田県民とし

て自然を大切に生活していきたい。」「白神山地を保護するために様々な法律があり、利用者への注意を呼びかけることが大変そうだった。」「白神山地を含む森林を守る活動を続けていくことが生態系を守ることにも繋がると感じた。」などの感想から、講義の内容をしっかりと理解して頂いたことが確認できました。

この講義をきっかけに、当センターが取り組んでいる白神山地の保全管理に理解を深めてもらい、学校が行っているフィールドワークを通じて自然に親しんでもらいたいと感じたところです。



講義に聞き入る生徒



メモを取る様子

能代高校ニツ井キャンパス校生への植樹指導

令和7年6月13日（金）、藤里町内で、水と緑の森づくり「みんなで木を植えよう」のイベントが行われました。

このイベントは、NPO法人あきた白神の森倶楽部の主催で実施し、秋田県水と緑の森づくり税を活用して行われています。

この植樹活動は、能代高校ニツ井キャンパスの1年生と3年生の46人、教員8人が、白神プロジェクトのフィールドワークとして参加することから、当センターに植樹指導の依頼があり、職員4名が参加したものです。

当日は、NPO法人の敷地内に集合した参加者に、理事長から開会の挨拶の後、当センター所長より、「人工林は利用期を迎えており、伐って、使って、植えて、育てる、循環利用を定着させることが重要。今日皆さんは、「植える」という重要な工程を行い貴重な体験となる。何年か後に、自分が植えた苗の生長した姿を見てほしい。」と挨拶がありました。

その後、生徒たちは植栽地の民有林に徒歩で移動し、コンテナ苗を作っている農園の代表者から、ディブルというコンテナ苗を植える器具を使った植樹の仕方について説明を受け、作業に取り掛かりました。

生徒たちは、3人一組のグループに分かれ、慣れない作業に悪戦苦闘しながら、約1時間で、0.12ヘクタールに、スギコンテナ苗（3年生）300本を植栽しました。

当センターの職員とNPO法人の会員ほか8名は、各グループを回りながらディブの使い方のコツや苗木が抜けないよう周囲を踏み固めるなど、植樹にあたってのアドバイスを行いました。

生徒からは、「スギの苗木を初めて見た」「花粉症なので大変」などの話があり、60年くらいで周りの木のように大きく成長することや花粉を出さないスギの苗が作られていることなどを説明しました。

二ツ井キャンパスの皆さんには、白神プロジェクトの招へい講座や今回のフィールドワーク（植樹活動）を通じて、白神山地の保全管理や林業への知識を深めてもらえればと感じたところです。



植栽方法の説明



コンテナ苗の受渡し



植栽の様子

能代高校生インターンシップ受入

令和7年7月23日（水）～24日（木）の2日間、能代高校からインターンシップの依頼があり2年生1人を受け入れました。

この生徒は、昨年「グループ別探求活動」で、ニホンジカについて学びたいと当センターを訪問した生徒3名の中の一人で、今年は「個別探求活動」で、更に学びを深めたいと訪問したものです。

将来は、自然環境の保全管理に関する職業に就きたいとの目標を持っており、職業体験の場として当センターを選んだとのこと。

1 日目は、白神山地の保全管理の一環として実施している「中・大型哺乳類調査」のセンサーカメラのデータ回収の様子を見学し、センターに戻ってから撮影されたデータの解析を体験しました。



センサーカメラのデータ回収

データを解析するにあたり、若手職員が作成した資料を基に、撮影された動物の特徴（形や色、夜間はどうか）を生徒に説明した後、撮影された動物を分類する作業を行いました。

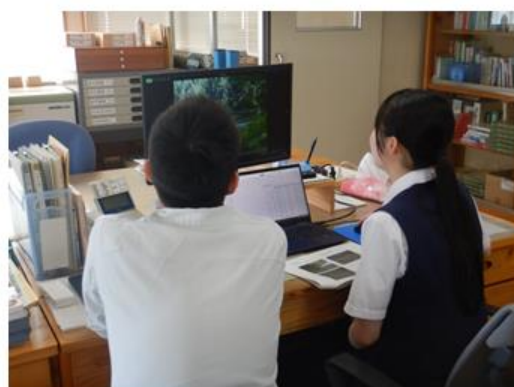
今回の実習で回収したメモリカードは4枚で撮影枚数は約4千枚、撮影された動物は11種でした。生徒は職員からのアドバイスを受けながら、限られた時間の中で3枚のカードから9種類の動物の分類を行い、初めての作業に戸惑いながらも1日目の実習を終了しました。

2日目の午前中は、当センターの概要や担っている業務をパワーポイントの資料を使用して、所長から説明を受けました。

説明が終わった後、昨年、当センターでニホンジカの説明を受けた際に疑問に思った点の質問があり、意欲の高さが伺えました。

午後からは、関連する業務を行っている環境省の施設「白神山地世界遺産センター（藤里館）」の見学を行いました。

施設の案内をして頂いたのは、東北森林管理局長から委嘱されている「白神山地世界遺産地域巡視員」の方で、白神山地の概要や自然の素晴らしさ、展示物の説明、巡視員としての活動についてお話を頂きました。



撮影された動物の分類



白神山地の保全管理について説明を受ける様子

女性同士、和気あいあい笑顔もあふれ、生徒からは「とても楽しく勉強になった」との感想が聞かれました。

後日、生徒からインターンシップを受けたお礼文が届き「白神山地の保全管理のためには動植物の知識、環境省など関係機関との連携も必要なことが分かった。巡視員の方のお話を聞いて、白神山地をはじめとして山や森林に関して興味がわき、これからは勉強を続けていきたい」との感想が綴られていました。

わずか2日間の短く限られた時間でしたが、少しでも目標に近づけるお手伝いが出来たのならインターンシップの意義があったものと感じています。

トピック

森林環境境域関連では、8月に都立大学の院生2名が訪問しました。二人は白神山地について興味を持っており、藤里町内に民泊しながら、白神山地に関わりのある方々から聞き取りをしているとの事で、当センターには白神山地の保全管理や森林環境教育などについて話を伺っています。

また、9月には能代高校1年生1名が、白神山地について知りたいと訪問し、当センターが行っている業務について説明したところです。

7月に実施した「第1回白神山地世界遺産地域合同パトロール」は東北森林管理局の広報誌「みどりの東北」に掲載しています。

9月に実施予定だった、第2回の合同パトロールは、巡視予定箇所に至る林道が落石と法面の崩落により通行が困難の為、中止となりました。

県道の通行止め解除に伴い、10月から11月上旬まで「岳岱自然観察教育林」の散策ができるようになります。

紅葉シーズンになりますので、ぜひお越しください。



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL: 0185-79-1003

「白神通信」QRコードはコチラ

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>



東北森林管理局広報
「みどりの東北」
QRコードはコチラ →



藤里森林生態系保全センター
ホームページ QRコードはコチラ →

